



リスクマネージャー!

医療の安全に取り組む全国のリスクマネージャー様にインタビュー

No.74 羽島市民病院 医療安全推進室 山本ひとみ様



【病院外観】



【山本様】

■ 病院の沿革と概要

- 1955年 10月 羽島市国民健康保険直営羽島病院開設（病床数 29 床）
 - 1959年 4月 羽島市国民健康保険羽島病院と改称
 - 1974年 2月 救急病院の告示
 - 1978年 4月 総合病院の指定
 - 1986年 4月 羽島市民病院と改称（病床数 313 床）
 - 1997年 5月 自治大臣より優良病院として表彰
 - 2006年 4月 看護基準 7 対 1 一般・精神病床の変更（病床数 329 床）
 - 2008年 4月 医療安全管理室設置
 - 2011年 4月 医療安全推進室に名称変更
 - 2014年 7月 亜急性期病棟から地域包括ケアセンターへ変更
- 病床数 281 床（一般病棟 225 床、地域包括ケア病棟 40 床、ICU6 床、結核 10 床）

■ 病院理念・基本方針

【理念】 心のかよう医療を通じて地域に貢献します

- 【基本方針】
- 1.医療連携を進め地域の皆様の健康な生活を支援します
 - 2.多職種協働により安全で質の高い医療を行います
 - 3.地域における救急医療環境の向上に努めます
 - 4.効率的な運営により健全な経営を目指します
 - 5.明るく働きがいのある職場環境づくりに努めます
 - 6.教育研修の充実を図り心豊かな医療人の育成に努めます

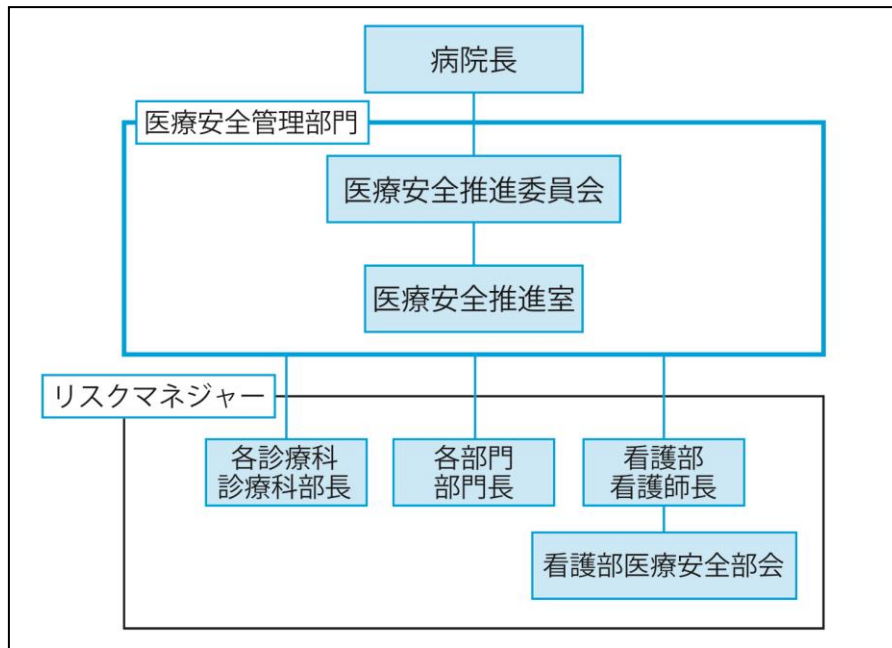
1. 組織体制について

医療安全に関する組織体制についてお聞かせ下さい。

院長直下に医療安全推進室があります。

室長（副院長）、専従医療安全管理者（看護師長）、医療機器安全管理者（臨床工学士）、医薬品安全管理者（薬剤師）、感染管理者（認定看護師）、医師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、事務の14名で構成されています。

医療安全推進室では週1回カンファレンスが行われ、カンファレンスで話し合われた内容を月1回行われる医療安全推進委員会で審議しています。



羽鳥市民病院 医療安全管理組織図

山本様の主な業務内容を、院内各部署との連携を含めてお聞かせ下さい。

私の業務内容は主に以下となっています。

- (1) 安全管理体制の構築
- (2) 医療安全に関する職員の教育・研修の実施
- (3) 医療事故を防止するための情報収集、分析、対策立案、フィードバック、評価
- (4) 医療事故への対応
- (5) 医療安全対策のための啓発、広報

院内での連携として臨床工学士と医療機器に関するラウンド、薬剤師と医薬品管理に関するラウンド、リエゾン看護師とはルート自己抜去既往のある患者様や転倒・転落予防対策を行っている患者様のラウンドを行っています。

2. 転倒・転落事例情報の収集と対策について

事例情報の収集から防止策の実施までの仕組みをお聞かせ下さい。

転倒・転落が起きると院内 LAN のパソコンからインシデント・アクシデントを報告します。その内容は医療安全管理者と部署の責任者であるリスクマネージャーはすぐに見ることができます。その内容を確認し、現場訪問をします。事例発生時の状況を確認し、どこに問題があったのか話し合います。防止策はまず、病棟で現場スタッフが考えますが、認知症やせん妄

のある患者様の場合はリエゾン看護師も介入し一緒に対策の検討も行っています。また病棟で行われている対策について医療安全推進室カンファレンスで取り上げ検討後、医療安全推進委員会で確認をしています。

近年の事例発生件数はどのように推移していますか？またその原因はどのようにお考えですか？

当院では、インシデント・アクシデント報告の転倒・転落を占める割合は、平成 24 年度 22.2%、平成 25 年度 22.3%、平成 26 年度 16.8%、平成 27 年度 4 月から現在まで 15.2%と減少傾向です。しかし平成 26 年度は骨折事例が 7 件と重大事象が多かったことは課題を残しました。その原因として考えられるのは入院患者の高齢化に伴う認知症の増加です。

高齢者は転倒すると骨折の危険性が高いため、高齢者の特徴を踏まえた対応が求められます。しかしまだまだ十分な対応ができていないとも言えません。離床センサーも活用していますがセンサーの数を認知症患者の数が上回ることも度々あるのが現状です。

認知症やせん妄による転倒・転落防止のための対策としては、週に 1 回行っているリエゾン看護師とのラウンドに力を入れています。リエゾン看護師が介入することで患者様の精神症状に適切に対応しつつ、患者の精神状態や行動パターンに応じた予防策が病棟で適切に行われているか確認をしたり、医療安全管理者として医療安全や危険予知の視点から提案をすることもできます。このように平成 26 年度からリエゾン看護師とラウンドを始めたことでインシデント・アクシデント報告の転倒・転落件数は減少しており、成果が出てきています。

※リエゾン看護師とは、精神看護の専門看護師のこと。「リエゾン (liaison) 」とは、橋渡しをする・連携する・つなげるという意味。精神科看護の知識や技術を持ち、障害や疾患をもつ患者とその家族に精神的ケアを行う看護師のこと。他診療科の看護師などと連携し、質の高い看護ケアを提供する役割を果たす。また、看護師の相談にもり、看護師のメンタルヘルス支援も行っている。

3. 医療安全について

医療安全に関連して、過去どのような研修を実施されましたか？

全体研修は年に 2 回、全職員対象に医療安全研修を行っています。

1 回目は、外部の医療安全に精通している講師を招いて研修を行っていただいています。今年度は 10 月から始まる事故調査制度の研修も行いました、また、過去には転倒・転落に関する研修も行っています。2 回目は各部署で行っている医療安全に関する活動を発表しています。また定期外では、インシデント報告の中から院内のスタッフに講師を依頼し研修会を開くこともあります。

今後、離床センサーを適切に使用するための研修も企画したいと考えています。

4. 離床センサーについて

【羽島市民病院様のご導入実績】

ベッドコール・コードレス : 7 台

スマット・コードレス : 1 台

導入機種はどのようなポイントで選定されましたか？また、ご導入後の効果をお聞かせ下さい。

患者様のレベルで床式タイプよりも離床タイプの（ベッドセンサー）必要度が高かったのですが、近年では徘徊対策用として必要となり、今年度初めて床式でかつスタッフと患者が識別できる「スマット・コードレス」を購入しました。テクノスジャパンのサイドコール、赤外線コール、徘徊ナビ、コールマットなど様々なセンサーのデモ機をお借りし当院の事例に適しているセンサーを病棟スタッフと検討した結果、今回は「スマット・コードレス」に決めました。

今まで床用のセンサーは使用していなかったため今後利用頻度も増してくると予測しています。当院ではセンサーを一

括管理していないため、病棟間で貸し借りをしながら有効に活用しています。

5.メーカーへのご要望について

弊社の商品や顧客サービスについてご要望、ご意見がありましたらお聞かせ下さい。

さまざまなセンサーデモ機をお借りし、検討させていただけるので感謝しています。なかなか購入には至らないこともありますが、使用してみないとわからないことも多いので助かります。

スタッフがセンサーの特徴を熟知しながら患者様に応じて選択し適切に使用するためにも職員にセミナーを行っていただきたいと思っています。

6.『テクノス通信』に関するコメントと、何か一言お願いいたします。

病院様の PR や山本様のポリシーなど何でも結構ですでお聞かせ下さい！

なかなか他の病院の取り組みを知る機会がないので、テクノス通信で他の病院の工夫等を知るいい機会となっています。転倒・転落は“0”にする事は難しいですが、重症事例にならないように患者様やご家族にも協力を得ながら、スタッフが一丸となって安全な入院生活を送っていただけるように頑張っていきたいと思えます。

テクノス通信 vol.76 (2015年9月発行) より